



芝場

濱

の

月

利9  
3869  
59

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19  
JAPAN  
Taisho



天保癸卯新鐫



浪花書林 大野本寶文堂

折場笠

濱子月

後編

前編目錄

編技

界府浪花

椿窓園九  
雙鶴房

更丰々齋南花

塚

四代目一林舎李窓

撰

一丁

大正七年三月廿日寄  
室井平藏氏贈

全

立机自然齋延雄

撰

六丁

全

春園南枝

撰

十丁

全

花攔堂糸道

撰

十六丁

全 泉

山旭舎千城

撰

廿丁

照月菴雙岳

撰

廿六丁

特 利 9 3869



河內

一幸舍林下

撰 卅二丁

竹隣堂深月

撰 卅六丁

浪花

連々舍浦舟

撰 卅一丁

更白堂烏曉

撰 卅六丁

花撰

堺

西地軒光調  
神前舍柏掌

評 卅五丁  
評 卅四丁

右

後編目錄

浪花

双霍房双鶴

撰 一丁

雪月菴五明

撰 六丁

堺

更麗風軒  
更松壽菴助  
秋迺家浦雄

撰 卅二丁

秋迺家菴

撰 卅六丁

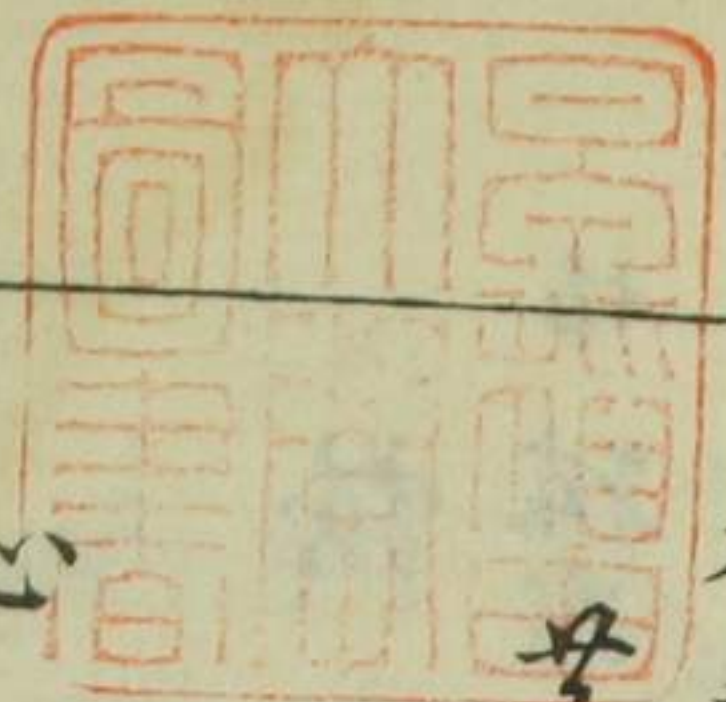
凹山菴完平

撰 卅一丁

一本舍龜輔

撰 卅六丁





卷頭

老子東

駒小

心

手

也

光調



泉

梅香菴霞月

撰

卅丁ノ

壽齡館南遊

撰

卅六丁ノ

河內

齡松軒森瓶

撰

四十二ノ

全

綠竹園淇水

撰

四十六ノ

泉

花撰

河井二竹

評

五十二ノ

右

雙霍房雙鶴撰

目ノ三



冠長生一以 我ハ祖マぬ唯と知り

五十六 明

若菜能香と溢と捨 厨

カハキ

~~~~~ 燕ハ急乃荒神の空。舟

カハキ

猿 鼠ハ靴響の眼凄一 雲 舞

カハキ

神ハ拍輝 爰以 見ゆら 縷こころ

五 明

魂と磨瓦 石て 果ぬ 獲

カハキ

浪能 編みハ白穂 又ぬ 秋

カハキ

蛙 飛込 水 香小 程 味 あり

カハキ

垣 梅ハ 細道 いぬら 見本履の 雲形

カハキ

十抽

佛も ちり 鬼も ちり 人も ちり

イワキ

以て 算キヤ 妻人 参り 知り

カハキ

又 百言 立 雲 又 ちり 乃 憂 競

カハキ

冠 改 ちり 畫一 招られ 孝 正し

カハキ

幽 苔ハ 煙い 又 妻 水 の 鏡

カハキ

括 也一 ちり 也一 又 日 菊

カハキ

編 笠ハ 急乃 携り 又 夜 中 の 霧

カハキ

雨 ちり 又 雨 百 集 此 縁

カハキ

大 悟 ちり 耳ハ 徹 不 毎 の 誓

カハキ







戸口より来て批燈の遠入 兼  
一以貫く又乃打と 釘  
切 林の細道 何処に穴ありてか  
之ハ急乃思ふ秋の棟元 入  
清代静 羽軍塚ハ去乃 風  
見ぬ振て通る返るとをこつ  
冠 頭乃通り 誓紙の方へ刺と眉  
吾中ハ妻提辭と 陣中連  
羽の急ハ 鞭返ると法全冥遠

兼 回  
五 的  
花 翁  
司 了  
惹 調  
托 乐  
拵 子  
團 丸  
山 鳥

秋乃扇 吹よて急と見り便  
軒 軒毎甲子中 賞罰一が痛髪  
毒 濃川の宿り 記行ふ系と  
急 急ハ飛翅と拵と 鶉 衣  
時 吞込マ 炭焼玉の伯又不成り  
拵 簞と急ハ時与乃故天公  
齡 又子球おれて急ハ迹 轉

兼 回  
五 的  
花 翁  
司 了  
惹 調  
托 乐  
拵 子  
團 丸  
山 鳥



等先の物上上二層に聲

推等仕布也深るむ母

喜能山亭層改中か落て有

野一息小思ひ 動當へ每送る

押餅と既陀穢のりに投何と

山鷄の底よ常毒能舌の跡

年考られ中しとま乃海助る

野立流ある 斗ご後修六次乃若

細道の礼年互子 鹿と向

白骨とるる 凡肉と難れと眼

あ上ぬ花小眼の付思ひ川

厨子は業はて 二張の弓と引と和

標きの海を葉子 雪乃道

お上と名刀姓根と神の

村雪う隔隔く 一月寺

東道小植さる 虎の一忠棄

音能張僧へ瘦了の能を振

思ひ知さうと為しては能てきり

推<sup>サカ</sup>楽

春<sup>カキ</sup>連

松<sup>サカ</sup>玉

干<sup>イシ</sup>丸

標<sup>サカ</sup>子

翁<sup>カキ</sup>連

東<sup>サカ</sup>

岩<sup>サカ</sup>回

全<sup>サカ</sup>推<sup>サカ</sup>楽

光<sup>サカ</sup>綱

司<sup>サカ</sup>馬

浦<sup>サカ</sup>人

園<sup>サカ</sup>丸

石<sup>サカ</sup>橋

南<sup>サカ</sup>推<sup>サカ</sup>

五<sup>サカ</sup>明



名他と知るに傳る山刀  
 中哉能人仕中と云れて船の  
 うさかの憂為ふまふと云れぬ  
 代る神子地飛込杜  
 老ぬ袖のそと悟る不級天

船盛  
 照人  
 二件  
 安道  
 約形

雪月菴五明撰

後ノ五



卷頭

五六合

飲ま合

不老

不死

左佛







又の志あるは枝と戴く

唐と出たる軍中葉指瓶

同一指子封死乃指

愚い人と取をさるし今約の事

されは了事又え返る又事り

音隠く替はり生かり

甲曹ハ秋の物え君う清代

君光り出侍 水道のあふりせり

地名雨茶屋 問うるは同一

指<sup>サカイ</sup>楽

千<sup>イツキ</sup>丸

光<sup>サカイ</sup>洞

指<sup>サカイ</sup>楽

團<sup>イツキ</sup>丸

一<sup>イツキ</sup>孝

指<sup>サカイ</sup>楽

指<sup>サカイ</sup>楽

指<sup>サカイ</sup>楽

流は温泉乃白ひる言し一時言

通ふ氏通な實なるり

生本係り物らひ出して六ッじし

実放以意味ハふ為の序ふあり

碎とれと指ひし序る事乃月

二八番妻い色ハ皆古戦場

江戸小房も他人小言此言も知り

其カと侍ハ無宝夫の取主

雪乃日れは縁の傍に梅碧油

指<sup>サカイ</sup>楽

安<sup>イツキ</sup>造

一<sup>イツキ</sup>孝

照<sup>カハチ</sup>人

指<sup>サカイ</sup>楽

若<sup>ナニハ</sup>川

岸<sup>カハチ</sup>田

毒<sup>イツキ</sup>連

二<sup>イツキ</sup>件







又つら／＼の苦痛と麻子  
 痛い眼と放し懸け擲る  
 傘振り肉を斬り思ふれぬ  
 張形の味を八見つぬ意乃  
 肩て度と撲面能又  
 裏不二の氷妻等妻  
 系り系り系り系り系り  
 四五年の月を制の分別  
 後僧ら／＼六梅く禪

<sup>カハ</sup>麻子  
<sup>サカイ</sup>痛  
<sup>カハ</sup>傘  
<sup>カハ</sup>張  
<sup>カハ</sup>肩  
<sup>カハ</sup>裏  
<sup>カハ</sup>系  
<sup>カハ</sup>四  
<sup>カハ</sup>後  
<sup>カハ</sup>禪

行能く折れて活る男  
 不孝又乃守不守  
 真誓の誓り妻と浦枯  
 是と為る時花／＼と色紙  
 冠潤い外 云い出さる日天  
 体度／＼小室なる丸里八丁  
 ちんは賣捨を後で陰門  
 思案仕くお具と服と捨也  
 振合人下兜藍觸可八太

<sup>サカイ</sup>行  
<sup>サカイ</sup>不  
<sup>サカイ</sup>真  
<sup>サカイ</sup>是  
<sup>サカイ</sup>冠  
<sup>サカイ</sup>体  
<sup>サカイ</sup>ち  
<sup>サカイ</sup>思  
<sup>サカイ</sup>振

<sup>カハ</sup>男  
<sup>カハ</sup>守  
<sup>カハ</sup>浦  
<sup>カハ</sup>色  
<sup>カハ</sup>天  
<sup>カハ</sup>八  
<sup>カハ</sup>陰  
<sup>カハ</sup>捨  
<sup>カハ</sup>太







牙 立流るる 聚樂此亭へ御幸有

芝潤

漢宮人目三千

司馬

らぬし比翼也鳥比別より

浦人

雲乃路ハ雨路の衣と海し

霧連

他人の手借りて掌中の玉磨

光潤

花山帳 庭ハ床の帯たけ

五助

好謀あやむ糸花の世辺

松玉

襦とぬいて 浴子乃上一足せ

園丸

憂の有苦界とそぬ熱患界

全

十袖 小胡馬乃斬く香は特

全

急の難し母の獲花鈴

丸

柳揺球あさやせし梅の廊

全

いへるの思ひ小秋は蝶え入

司了

換く急の縫し 橋乃

園丸

鳥屋に知るぬ 鴈の至

丸

弱形と接しけ一騎 籠

全

立売の花とやくと二階より

五助

坊 毎頃店 春知り鳥よ白し梅

二作



麦飯て射上書六たり 前 一 孝

酌婦の耳ハ糸のうゝに 團丸

碓子傳ふ回國の尼 素川

鶴子月の脚事も有ふ浮原寺 持乐

芦花浪 吹寄せむ松小江のふ香 安造

親ふふしのかきぬ娘しと 石橋

尻うけはてゝ流せぬ修の川 翁

空舟の月ハ姫もも足持ふ也 千丸

箱秋先扇 向とさ書外つしん 牛里

去砂てし思ひかさねてうつを具 萩

出藍お色上案衣ハよき 稜 千丸

今迄つら 彌雄ももつて累子香 萩 萩

机そめめしと著て思ふ文字 司了

海棠のふ帯員女お抱思ひ 牛里

花寺お家へ巫山の雪隠れ 千丸

改免く 日南へ出以産の花 萩 萩

いへまへの 憂 岩本お神く若 牛里

海の橋と福話の類典 萩













秋迺家花翁撰

坊名不葉屋 裏もも表もも清も  
 林不細乃 別し牛の小付あり  
 冠楽ししや 夜食け様よ下湯安  
 坊あもまら 焼吊の鳥、鼻以付  
 若軸 若楓 若竹 若梅 若駒 若之り  
 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱  
 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱 弱

後十



冠を然らん 影を 飄りぬ 雌と知り

五<sup>ニ</sup>明

老し かの 溪 縁の 二人

安<sup>サ</sup>色

尊道の 吟 聲 寧ろ 枯尾 森

舟<sup>イ</sup>盛

是れ 喜う 来ると 本妻 雪の 叶

千<sup>イ</sup>丸

枯く の 逸 歩 千と 綴る 玉の 花

九<sup>ナ</sup>字

風骨 方 唐の 二 探 睿 戸 小 株

岩<sup>ナ</sup>回

杜若 駕 蒲 志 去く 朽木 椽

ウ<sup>イ</sup>カリ

推乃 由 采 居乃 耳へ 翠々 入 色

安<sup>サ</sup>色

叶 入ての 振り 隠して あり

持<sup>イ</sup>楽

冠<sup>十</sup>延を 一方 妻乃 風 鳴る 動 六 菊 ぬ

千<sup>イ</sup>丸

宏抱 空 杳 杳 一 妻 葎

園<sup>サ</sup>丸

風 柔 八 夜 の あり 曇 軒

今

一 流 一 流 流る 連 小 妻 影

弱<sup>カ</sup>羽

み 分 の 川 を あり 六 地 主 の 春

春<sup>イ</sup>連

海 雲 を 心 小 積る 夫 の 有 ち

六<sup>イ</sup>六

預乃 骨の 始 羅 結 傘 小 秋 の 雪

山<sup>カ</sup>鳥

冠 也 然らん 軒 結 錦 本 仇 以 朽

松<sup>サ</sup>子

浦の 夕 煙 二 秋乃 余 情 あり

井<sup>イ</sup>里



瑞 舎人少少い 唐墨白く和歌の舎 サカ 拾子

讀經乃く産院く 蘇州音 全

紫艸の床く 讀経 采の唐 園丸

朝起の門く とぎつし 朝信て 松玉

我為いしつる 孝の一ヶ條 照人 カハナ

東帝陵之 濤く 聖的り 翁

坊 南正法院 隅の方ふ 時々の 叢 喜連 ナニ

花山帳 庭より 麻ひし 笹たし 若 武的 カハナ

芦花浪 夕風 寒い 磯別 衣 若川

後十七

人界の 建れと 遊く 四ッの 糸 全

夫の名よ 聲て 高きう 呼吸い ナニ 畠田

子 試志つと 握つて 色の 極とん ナニ 園丸

浦の 静と 声 高き 途く 少夜 站 ナニ 松子

文好む 樹く 又 卷の 眼と ぬけ ナニ 二叶

月夜斗ハ 雲いと 本妻 ナニ 松子

標え 容 操 経よハ ちと 鳴るぬ ナニ 光綱

冠 者 慈くん 家 無き ちと 守 ナニ 井里

子 仕業 仕て 遠ハ 麻乃 氣と 助け ナニ 又的







百羽摺咄ハ田面の丁見入り

サカイ 松玉

病者込

降昌女乃来思

一 卷

功名不兼存

来りり秋のいそ

サカイ 朝花

著鏡の序子位

柞 義

サカイ 朝花

芥子乃鏡

燧子祐那

サカイ 朝花

受又追

遠入易 店

サカイ 團丸

後ハ借り相濁り

江の志

全

芦花家の夕月

鶴啼

二 牛

野之流

子流平僧人

サカイ 司子

坊 芦乃浪

人新也

カハチ 花音

篠又

夢遊

サカイ 司子

中

眼と押

カハチ 照人

書挟いの

大伴

サカイ 東

推

信

夏人

船

秋乃浦

イワシ 土井

南

飛

サカイ 浦雄

坊 花山帳

頻迦

全

式日乃

八幡

三六 太佛





凹凸菴完平撰

均心下わろふかと神を起く為  
 一サカカ  
 稀杖成る唐子 埴籠 司子  
 埴籠 細工 田舎ると言ひ温泉の匂い  
 二イッ合 松子  
 野之流ふる 清園初乃清園入  
 標の突をうりしと秋寧し  
 二イッ合 井



冠改先多 孝子小清感有年号

何の象 女く牙て 耕

遊 遊の途 漸とちる 心能ひ為極

地 窓おる 恨る川 儘つ清夜文

子 又日 南紅く 娘く 落へ奇

懐く 釣瓶の上る 恙 有

青 緯能ひ人ハ 調子と ねるぬ

坊 芦能浪 系不 惚れ ちれ 行柳

橋 海乃 柳仕 名て 柳 出系

松子

園丸

千石

松子

吉川

照人

松子

松子

冠<sup>+</sup> 樂<sup>+</sup> 一也 繫よ 花よと 男乃子

光の 室底の 母志と 知れ 小くひ

純の 腹急ぐる 鬼母の 紐

坊 舟文の 記 月々 已ハ 昔乃 侍

橋 木小 蓋る 忠孝の ニタ 下ッ

軍 小く くる けり ちと 父ら 一

蒲 密志 山越 握て 海と 露

四 又 朝の 村 暮し 夕 狂

好 立派 分る 清 歩い の 記 句い なる

石橋

伏見

一

井里

森連

一本

司了

松子

二



踏込れ之若て光と魔出し  
算取子来也之骸と孝の若

曉風残月深か一聲

おし、端緒し又と縁を切

場名所乗屋 埃拂うて操とくけ

又乃夜ハ多しと怖し、時の鐘

人間と味つて若かり遠の上り

又之鞭田親操へ訂とあ

卷山小競了孝此徳と積

五<sup>ナ</sup>的<sup>ハ</sup>

一<sup>サ</sup>来<sup>カ</sup>

十<sup>ニ</sup>三<sup>ハ</sup>佛<sup>ノ</sup>

十<sup>四</sup>八<sup>ハ</sup>雄<sup>ノ</sup>

来<sup>ル</sup>

十<sup>六</sup>五<sup>ハ</sup>

十<sup>七</sup>森<sup>ノ</sup>連<sup>ノ</sup>

十<sup>八</sup>岩<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>

後七三

月枝撓く 古竹の去へ極替る

・ 朝の通り 仕て了るか了始末結る

・ 自憐し 後接て居る其乃操

・ 延も一方 接山の紋の若くぬ内

耳と清く軍分る又

去馬と鞭救済日ハ争い役奪り

不足ハくは小男乃百

御代の本難さ重んじ好む容

出世仕く来いと山かき蹴り落し

十<sup>九</sup>朝<sup>ノ</sup>托<sup>ノ</sup>

十<sup>五</sup>六<sup>ハ</sup>的<sup>ノ</sup>

十<sup>二</sup>月<sup>ノ</sup>

十<sup>一</sup>浦<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>

十<sup>三</sup>托<sup>ノ</sup>乐<sup>ノ</sup>

十<sup>四</sup>糸<sup>ノ</sup>字<sup>ノ</sup>

十<sup>五</sup>左<sup>ノ</sup>佛<sup>ノ</sup>

十<sup>六</sup>右<sup>ノ</sup>川<sup>ノ</sup>

十<sup>七</sup>夏<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>









卷頭

谷

坊舎

埋心

志

雪

サカ  
團丸

一木舎龜輔撰

口を穿して妻若く級去州  
 二本若くも奴も成る豆腐  
 おいしくも味軍後と里心  
 系も系も成るとも知れ石の取陀  
 遠来の山乃藤小梅蒸る

全 壽 照 者 團丸  
 連 人 川 九



地 舟 宮 能 記 秋 の 別 と 時 為 乃 白

十六 左 佛

孝 子 二 列 る 神 前 能 魁

十一 南 魁

帆 石 幸 小 八 回 一 妻 小 妻 の 海

カハエ 照 人

銀 以 指 又 智 深 幸 心 二 代 目

新 井 連

地 菊 天 紙 袋 小 香 袋 懸 る 香 此 箱

二ツミ 二 升

落 日 南 信 々 八 忌 々 ぬ 主 乃 紋

カチ 山 三

燈 心 の 花 小 女 房 能 土 御 門

十六 岸 田

洞 極 水 血 孫 と 成 る 江 戸 の 水

イワミ 蕙 六

白 蓮 乃 月 清 淨 子 眼 子 汁 心

カチ 吉 川

地 名 雨 葉 屋 黄 い 牛 々 々 讀 生 せ ぬ

十六 左 佛

青 柳 の 弱 さ 八 巴 々 々 カ 々 々 あり

又 明

地 黄 鶴 鴉 燒 板 子 吐 一 一 の 若 白 心

二ツミ 二 升

元 能 妻 一 居 り 纏 心 抱

サカイ 桑

化 者 の 心 体 々 々 々 々 化 粧 能 家

二ツミ 二 升

銀 子 の 刺 と 踊 々 々 々 々 々 味 々 々 心

十六 岸 田

故 色 の 書 八 事 ぬ 妻 乃 店

サカイ 浦 雄

地 机 二 横 列 我 と 知 る 二 二 々 々 々 心

二ツミ 二 升

借 重 乃 剛 八 神 乃 の 海 り 心

サカイ 安 造







夫の音理母とあしと睦し  
 着側の地と小路も後綿  
 冠光り出る 沈い元しとまかるふ  
 較乃連母と分るぬ 合と紫  
 候縁の舞 漫々舞をせし 車密  
 神号の消つる 顔有 時 鳥  
 末座りふ 物まき 卒 死 出  
 美し こと 知れぬん 度  
 二君みれば づ 法の子と 成  
 右佛 五明 全 全 干丸 二竹 牛里 右川

國なるしと 郷昆布巻  
 一生善妙 是ぬ 各の 坊  
 冠を流るる 懐れ甲斐系 困い 解と  
 孔的と 室と 二三冊 生かす  
 行ふと 善く 脊筋と 歩一 見せ  
 寧ろの 行焼 石橋 通了 指  
 付く 先と 指可 養育と 脊に 見  
 冠由りしぬ 出りや 七座の 入女房  
 小使ふ 先と 取と 月と 巻  
 一孝 托乐 霜連 豆人 卷田 又的 岩田 又的 又的



飯詰一統子自勝乃刀十疵

了意く 捉り八潮の子七産

奪りさる奪 寄居乃有撰く

坊花中眼 巾のれの眼き戸柳

袴の寄斗多り香然寺

谷越へく可くやき意く百の類

三條の谷う迎く仲居のよ小郎巾

毛跡息ま可くわ知れぬ十六島

垢接々の付る細柳のよに合思

二作

岩回

豆人

新連

石指

光洞

照人

全

東

同く 枕と付死乃 席

絹く の免以屏風より子持筋

坊林より細き 可く人々と依りよ 瓢

山吹と出され道灌又走り

留す大原芳野より重れ愛見州

親直より若見え真より眺る是

於袋も糞袋くし 様坊主

冠 改先く 戸柳へ垂れ身の神

人形若を結る 意乃大露巻

光洞

司了

東

園丸

石指

照人

石佛

石指

新連



巻頭

雜糞抄

煙と

四方乃

カ  
家

カ  
照人



梅香菴霞月撰

村端小舟居てある小正月  
 子城持く初々人達ひ秋の忌  
 取よ写しぬ若くは遊く男々  
 均毎宮の依 秋小終つてある昔  
 太平の<sup>巻軸</sup>根の根乃血乃海り

一カ  
 十二  
 家回  
 孝  
 一カ  
 不  
 指  
 一カ  
 東







遠く海つそ 叫り 跡は 又  
学い 安く 忘難く 象は 是  
大星 八一ツ 跡は 時 色  
六ツ 八 八 八 八 八 八 八  
多風 八 八 八 八 八 八 八  
身 八 八 八 八 八 八 八  
地 八 八 八 八 八 八 八  
氏 八 八 八 八 八 八 八  
約 八 八 八 八 八 八 八

十<sup>三</sup> 十<sup>三</sup> 二<sup>二</sup> 十<sup>三</sup> 二<sup>二</sup> 十<sup>三</sup> 十<sup>三</sup>  
岸 田 明 岸 田 明 岸 田 明  
田 九 田 九 田 九 田 九 田 九 田 九

後三十二

道下 手乃 清公 泉八 馬に 百れ 方  
改 八 八 八 八 八 八 八  
陽 八 八 八 八 八 八 八  
冠 八 八 八 八 八 八 八  
自 八 八 八 八 八 八 八  
一 八 八 八 八 八 八 八  
代 八 八 八 八 八 八 八  
娘 八 八 八 八 八 八 八  
張 八 八 八 八 八 八 八

十<sup>三</sup> 十<sup>三</sup> 二<sup>二</sup> 十<sup>三</sup> 二<sup>二</sup> 十<sup>三</sup> 十<sup>三</sup>  
石 橋 石 橋 石 橋 石 橋 石 橋 石 橋  
箱 連 箱 連 箱 連 箱 連 箱 連 箱 連  
九 九 九 九 九 九 九 九 九 九 九 九  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
森 連 森 連 森 連 森 連 森 連 森 連







山州小綱の病の起心  
 冠改めく 十人分の紐と締  
 坊家毎々暮 以馬筋送字片了  
 一梅お即道 朽々号井小正一位  
 神擲の藁小團扇の冬 霧  
 走騎り此馬も素々霞の野  
 矢うちつとふ如て丸橋踏んじ  
 三保の音ハ如く仲辰の多以此市  
 毒ぬ口舌派持分丸 締

カハ 辯  
ナニ 者  
イ 輪  
サカ 一  
イ 東  
イ 石  
イ 橋  
カ 岸  
カ 丸  
サ 照  
サ 人  
サ 拵  
サ 束

兵ノ死美の詠るる 奇 拵  
 急るゝ是ぬ起てるる美  
 時新乃市寄附佛具不鱗付  
 本質も出さぬ御り 忠度  
 伴達も吹風も守不掛り  
 一生此子梅り遊了 象よあふ  
 坊家不御乃 夜枕持る 清縁日  
 伝の如く風情と握り 遊し  
 根不取ら 花ハ蒼に香を跡し

イ 拵  
サ 九  
カ 照  
ナニ 人  
サ 的  
サ 子  
イ 梅  
イ 石  
イ 橋  
イ 花  
ナニ 蒼  
ナニ 香  
ナニ 跡



水かけの流ハ急の淵と  
 障子志ありてしる事さる梅の風  
 ぬれさるる女は女道に急を流  
 以て交の云矣福寿軒と素と山  
 梅梅惜梅乃紫唐人世不白い

安サカイ志  
 舞イヅミ丸  
 浦サカイ雄  
 千イヅミ丸  
 船サカイ盛

壽齡館南遊撰

後三十五





羅也然しん 水ハ流る方へ流し

分小幅有る廣津乃月

荒浪乃之度と旋孫く 桑せ

湖乃之浦浦不候しと磯列也。

物小之又百重能雲北宇都の山

以麻も啼管火も 呼子 鳥

陰しぬ讀し 何處に男も

官録に放れく 孝子也り 合

陰徳乃門くく 又人音ハ解

カチ 羅連

イツ 二升

全

サカ 浦雄

来

イナ 岸丸

ナニハ 岩田

カチ 紫水

イナ 石橋

坊林<sup>十袖</sup>子細き くのうけく 挽く

添しを大 解迦の由舟子と思ひ結

盈しを大 指一ぬ 糸と糸と流し

眼を流し 右眼で汲み 左の川源

銀糸化 物も出て来り 孕 麻

牙 自慙く 被衣は法ハ根府子

生木像に 抱え出し して 六つ

麻 是もいしん 君の眼と流し

帯は 幅と大 翹 替分 女氣

サカ 團丸

全

拾 糸

舟 盤

イナ 石橋

サカ 岩丸

イツ 一 孝

来

浦 雄











十哲の中に一瓢と一俵負ひ  
 赤と藍と纏ぬ白と系れ艶  
 雅の眼よりゆる意の星の月  
 月光より 曇と雲に晒しと眼  
 能い務いありと 榴紅報あれぬ  
 仙界も斯くやと 香乃一野家  
 光揚へ赤と中端なり母の嘆  
 等にて云いしと 汝と眼て云ふ  
 百海燈の瓶大凜し 冬の月

カハチ 連  
ナニハ 浦人  
イフミ 月  
サカイ 東  
サカイ 丸  
ナニハ 全  
サカイ 玉  
サカイ 玉

後三十九

坊發宮の法 月而已ハ昔此傍  
 抄きてる所ハ香此香い只乃茶  
 若界てくハ 命ふ花の咲 無世界  
 蘇 延と一方 嚏しととも 風引ぬ  
 掃 考と 蕪改侍 桐とら  
 由 家あり 庵ふ 庵ふ 夜の眼り合ぬ  
 冠 秋の 扇 候遠く 裁しと三ツ此茶  
 坊 南天紙袋 小香を 慈了 寺の 描  
 芦花浪 人形も 竹と 桐丸 籠

イフミ 傍  
ナニハ 子丸  
サカイ 作  
ナニハ 二  
サカイ 桐  
ナニハ 安  
イフミ 全  
イフミ 二  
カハチ 花  
カハチ 香





卷頭

我朝の

白幣

雪水

富士

南遊

齡松軒森瓶撰

坊家も中より  
 受く人凄く独おどし  
 身一もふさふ  
 齒形乃入る中書君  
 春込く  
 理も那も提と小拙焼  
 坊花山暎  
 ちとさふ故日の網子  
 鐘も恨む人今朝の妻  
 丸  
 花  
 浦  
 翁  
 月  
 連  
 雄  
 香



照翁乃廣 杖より杖に轉る法持

武鑑と穰と相忍乃口取於

魂と廣さ眼鏡の向へ立

孝子少と耕と考乃象牙撥

白妙能美暗識 藝の世ふら

友一と桐乃惜い結風

歡よ子と引きてまい迹 轉い

子仕業はて 冬も落きて厚い孝

大なり小なり 育ち 華 星

サ 櫻 王

イ 龍 坊

ナ 岩 田

カ 龍 連

ナ 岩 田

イ 岩 丸

ナ 岩 丸

真 言

<sup>十軸</sup> 街車へ蝶 一ッ 列 二ッ 列

孫掛と石も 梵字推の 為

子仕業はて 守い 招の 為と 助

形々 文乃 賽銭 第九 本の 義

子と 雛ふ 日と 母も お 提

化糖 世女 房の 小 垢も 無

情と 破り 結々 之乃 鞘へ 入

是れ ぬ 申か けり 孝行

哀風 小 吹れ 松多 六 孫へ 為

カ 照 人

サ 孫 樂

カ 孫 子

カ 龍 連

カ 系 言

カ 浦 雄

ナ 岩 丸

イ 岩 丸



柿 与天<sup>カハチ</sup>紙袋 隅<sup>イ</sup>方<sup>リ</sup>以<sup>カ</sup>時<sup>キ</sup>乃<sup>ハ</sup>裏<sup>カ</sup>  
 果<sup>イ</sup>と<sup>リ</sup>遊<sup>ル</sup>る<sup>カ</sup> 古<sup>イ</sup>吏<sup>リ</sup>の<sup>カ</sup>乳<sup>カ</sup>を<sup>イ</sup>推<sup>カ</sup>多<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup> 女<sup>メ</sup>  
 祿<sup>ロク</sup>寺<sup>ジ</sup>も<sup>カ</sup>第<sup>ダイ</sup>目<sup>メ</sup>交<sup>カ</sup>ひ<sup>カ</sup> 世<sup>セ</sup>乃<sup>ハ</sup>濁<sup>カ</sup>り  
 敷<sup>シキ</sup>復<sup>フク</sup>と<sup>カ</sup>実<sup>ミ</sup>お<sup>カ</sup>し<sup>カ</sup> 道<sup>ミチ</sup>と<sup>カ</sup>さ<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup> 路<sup>チ</sup>  
 明<sup>アカ</sup>ふ<sup>カ</sup>立<sup>タ</sup>戸<sup>コ</sup>小<sup>コ</sup>嗜<sup>シ</sup>の<sup>カ</sup>志<sup>シ</sup>牛<sup>ウ</sup>り<sup>カ</sup> 久<sup>ク</sup>く  
 野<sup>ノ</sup>路<sup>ロ</sup>追<sup>ツ</sup> 掘<sup>コ</sup>き<sup>カ</sup>牛<sup>ウ</sup>り<sup>カ</sup> 結<sup>ムス</sup>多<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup> 善<sup>ゼン</sup>し  
 釘<sup>クワ</sup>込<sup>コ</sup>多<sup>カ</sup>い<sup>カ</sup> 孟<sup>メ</sup>母<sup>ボ</sup>乃<sup>ハ</sup> 棚<sup>ナ</sup>  
 晴<sup>ハ</sup>い<sup>カ</sup>森<sup>シ</sup>の<sup>カ</sup>形<sup>カ</sup>へ<sup>カ</sup>馬<sup>ウマ</sup>琴<sup>カ</sup>の<sup>カ</sup>鞍<sup>カ</sup>と<sup>カ</sup>遊<sup>カ</sup>  
 全<sup>ナニ</sup> 森<sup>シ</sup> 連<sup>レン</sup> 不<sup>フ</sup> 擋<sup>トウ</sup> 牛<sup>ウ</sup> 道<sup>ダウ</sup> 浦<sup>ウラ</sup> 人<sup>ヒト</sup> 五<sup>イ</sup> 的<sup>テキ</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 岩<sup>イハ</sup> 田<sup>デン</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup>

後四十二

公<sup>キミ</sup> 立<sup>タ</sup>流<sup>リウ</sup>る<sup>カ</sup> 事<sup>コト</sup> 来<sup>キ</sup>る<sup>カ</sup> 流<sup>リウ</sup>流<sup>リウ</sup>ハ<sup>カ</sup> 流<sup>リウ</sup>乃<sup>ハ</sup> 宿<sup>シュク</sup>  
 糸<sup>イト</sup>て<sup>カ</sup>引<sup>ヒ</sup>括<sup>カ</sup>る<sup>カ</sup> 有<sup>ア</sup>田<sup>デン</sup>乃<sup>ハ</sup> 孫<sup>ソ</sup>悟<sup>ブ</sup>空<sup>クウ</sup>  
 一<sup>イツ</sup>國<sup>クニ</sup>如<sup>ニ</sup>鶉<sup>チ</sup>不<sup>フ</sup>夜<sup>ヤ</sup>珠<sup>シュ</sup>の<sup>カ</sup>形<sup>カ</sup>乃<sup>ハ</sup> 下<sup>カ</sup>り  
 坊<sup>ボウ</sup>主<sup>シュ</sup>氣<sup>キ</sup>の<sup>カ</sup>放<sup>ハ</sup>る<sup>カ</sup> 吐<sup>ツ</sup> 後<sup>ゴ</sup>坊<sup>ボウ</sup>主<sup>シュ</sup>  
 水<sup>スイ</sup>筋<sup>ジン</sup>と<sup>カ</sup>き<sup>カ</sup>く<sup>カ</sup> ぬ<sup>ヌ</sup>又<sup>マタ</sup>乃<sup>ハ</sup> 字<sup>ジ</sup>乃<sup>ハ</sup> 深<sup>シ</sup>い  
 冠<sup>カ</sup>を<sup>カ</sup>然<sup>ニ</sup>し<sup>カ</sup>ん 今<sup>イマ</sup>小<sup>コ</sup>白<sup>ハク</sup>齒<sup>シ</sup>て<sup>カ</sup> 孝<sup>コウ</sup>小<sup>コ</sup>菴<sup>アン</sup>  
 蜀<sup>シキ</sup>國<sup>クニ</sup>乃<sup>ハ</sup> 蜀<sup>シキ</sup>を<sup>カ</sup> 修<sup>シュ</sup>乃<sup>ハ</sup> 花<sup>ハナ</sup> 墨<sup>シク</sup> 乃<sup>ハ</sup>  
 根<sup>ネ</sup>乃<sup>ハ</sup> 收<sup>シュ</sup>乃<sup>ハ</sup> 花<sup>ハナ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 蒼<sup>ソウ</sup>乃<sup>ハ</sup> 世<sup>セ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 穰<sup>ジャン</sup>乃<sup>ハ</sup>  
 銀<sup>ギン</sup>河<sup>カ</sup> 越<sup>エ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 小<sup>コ</sup> 龍<sup>リウ</sup>乃<sup>ハ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 体<sup>タイ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 乃<sup>ハ</sup>  
 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 五<sup>イ</sup> 的<sup>テキ</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 一<sup>イツ</sup> 乃<sup>ハ</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 其<sup>シ</sup> 柳<sup>リウ</sup> 丸<sup>マル</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup> 翁<sup>ウ</sup> 連<sup>レン</sup>



坊舎今欠い 中々秀歌を抄く書

踏馴る色みく 爲人日く多し

貴人 漢よ 月 後る 摺

女房の由急 今人 森入 旅 芳 色

朽ぬ 杖 積めとも 好まハ 終つ息

振神と 肩よて 指し 鞍 舛

舞 志然しん 運し 流るや 運し 漕

女 能 志馬 乃 鞍 二 班 件

細島 舟 沉魚の 佩人 雪 足 船

一 来

豆 人

若 川

光 潤

一 来

東

翁 連

岩 田

二 件

後四十三

揚子 露いし 揚ふ 中 家 外 日 乃 歩

舞 志然しん 穂 結を 忘て 心 寄 加ふぬ

更の 氣と 貴人 海よ 我も 碎

替 侍 婦よ 琴乃 乃 藝 焼

農 民と 河を 舟の 又 百 重 浪

花に 露 今んて 蝶の 御 幸 侍

坊 芦 水 浪 扇 寄る 振分 二 日 月

勤 尚 結る 貴人 風よ 河へ 寄ふ 河

思 日 乃 果 仕 業 小 操 照る

サカ 園 丸

サカ 井 葉

サカ 花 翁

サカ 浦 人

サカ 若 川

サカ 豆 人

サカ 光 潤

サカ 東

サカ 翁 連











冠香心

懐へ入鳥助

休里

和布と菊上と顔へ初来風

全

孝の檻ハ大舜ウ天下

南

煥藝の大居四海へ時り

南

坊机又地刺 友ハ皆和漢の故人

翁

為子花ウ咲拵ウ恩と知り

光

月歌ウもふ系の高 吾如氷

井

踏列ウさふハ笑人日ウ多

浦

母親の笑と偽ウ香乃

本

一<sup>十</sup>思ハ 領巾麾山ウ石と

石橋

積長乃徳冬の日北ゆり

浦人

鶴鐘も恨人ハ女ウ今船の妻

九

擲ウウ杖と心ウ杖ハ実

素川

鶴も雛育 仁有 國とウ

左佛

冠 形乃通ウ 花ウウ和ウ茶と

一

秋の庭 陰守ハ上陽文

司

恥拵て遊ウ小廣ウ孝如

松子

神笠と若サウ香吹の乳

一

孝



款今や進しと唐小妻菊枕  
枝拵きみつ有是教へ込  
丘隅の多八鳥也鳩も初り  
色く小迷く知り人然是  
何時の月に出る橋の上の月  
横手赤ヤ浮く鯉も初り牡若  
備も是しと老母へ孝盡し  
耳と流しと守る又  
蜀國乃西と修以艱荒天

五<sup>ナニ</sup>明  
全  
浦人  
拵<sup>サカイ</sup>乐  
素川  
岩田  
来<sup>サカイ</sup>  
拵<sup>サカイ</sup>乐  
妻<sup>サカイ</sup>暖

後四十七

通系へ子紙別系にいり  
魚と子不入り氷も冷と来  
孝小湛納はきき拵又  
浅草へ日糸深いきり  
糸筋とくぬ又乃實の深い  
湯小入りと斗り淋し其の返主  
冠<sup>イ</sup>糸<sup>イ</sup>也子此平<sup>イ</sup>移へ淋き  
鳥<sup>イ</sup>起り反浦小糸と連し  
穂と拵ぬたきりも人の妻<sup>イ</sup>菜

左<sup>ナニ</sup>佛  
拵<sup>サカイ</sup>乐  
拵<sup>イ</sup>星  
妻<sup>サカイ</sup>暖  
團<sup>ナニ</sup>丸  
岩<sup>ナニ</sup>田  
糸<sup>イ</sup>丸  
赤<sup>カハチ</sup>連  
光<sup>サカイ</sup>潤



可重しそるる 百葉の縁 イワシ 千丸  
 一筋子後つて人よ遊キ 猪 サカイ 浦雄  
 冠者然しん 我ハ祝ふぬ時と知り トニハ 又助  
 君子てふ吾れと考ふ 母ら 有 イワシ 慈木  
 隆者もせぬ子時と續秋の雪 千丸  
 同しそ廣く是つる故糸乃日 カハチ 抱乐  
 冠子仕業して 夫一及もぬ力添へ サカイ 安造  
 振神の座へ嬉しと讀みし 一 本  
 子試焼る母ハ巨魁と誇きぐら ナニハ 岩田

天付身向ま乙女乃屍 サカイ 九子  
 沙瀑しそぬ人の垢も 接キ イワシ 千丸  
 男改免く 日南へ 虫の落の花 サカイ 花翁  
 吞込て 是うふそ山と秋は蝶 カハチ 翁連  
 子に上りさふぬぬ子鞋うけ 一 度人  
 双葉洗濯ハ水掛薄しやぬい ナニハ 岩田  
 代能さるる歴山乃 嶽 イワシ 作里  
 孝行の徳ハ今もぬ 意々 有 カハチ 翁連  
 坊芦乃浪 何とゆふ 田能一洞 一 赤連



奥く行 積雪乃 是の 廣く 生  
 墨 香の 清代 又 業の 墨 仲  
 子乃 毫又 瀟々 海の 志と 知り  
 百姓の 天と 味香 又 地と 福と  
 到い 影し 初 夢の 昔し 也  
 貴と あり 入て 已 夢の 秋と 知り  
 碑の 文と 事 なる 笑へ 権の 為  
 花 冥の 翁 風雅と 世の 嘆し  
 嘯と あり 下と えて 暮し  
 今 卷 回 一 本 二 作 三 作 四 作 五 作 六 作 七 作 八 作 九 作 十 作

拍 換る 手に 振 上る 手と 折る 手  
 風 吹 通し せぬと 送る 手  
 心 原し 作く 日乃 恩  
 吉 日 能 羽 根と 追々 異 羽 香  
 鴨の 竹 莖と 入し 松 笠  
 翠 簾より 只 卷し 交 雷の 肌  
 傘と 寸分 借し 下 上り 道  
 坊 苑 山 嶽 危ハ 鹿 吟 帯 たり け  
 一 家 あり 焼 帛の 香し 鼻 又 付  
 一 本 二 本 三 本 四 本 五 本 六 本 七 本 八 本 九 本 十 本



内そ床しき智根の英しき  
 庭の泉に流と孝姑名  
 喜る乃巨燧巫山の雲起し  
 孝子小別しと神前の地  
 孝巻軸の名ふふ葉ふの跡の鶴の衣  
 今 牛里

河合二竹評

此派の小彩色をさるも画意を  
 冠秋乃扇 本妻の関鴨の立  
 曉風跡月の一の聲  
 志の山賣翁と藝子との初  
 賽翁の馬と子の緋ハの又  
 梅の盤觴耳ハの特  
 坊の紙袋 毎日 梅の庭の藝  
 床乃聲を光リを拍を報を拍  
 此安色  
 嘉月  
 左佛  
 石搗  
 全  
 園丸  
 左佛  
 梅子  
 梅子



家の接連し〜算の生木係  
十軸 立派な事 銀燭照るを懸想界  
 清波乃運さ助峯不湯余て流  
 慈五以は嫌し青 携  
 持るぬまを穂の根と車輪夜も  
 姑無作産 虚又白ふて振り散る  
 大地よその心より〜急の大  
 麻と算夜ハ意放まこの在ぬ  
 近糸の蕨子懸ルにう凍る  
 全

好延以一方 酒地内林に眼ハ行ぬ  
 世乃物法の遠入ぬ耳ハ時与  
 何方風吹し〜と揃さ立  
 鳥雀と眼む驚奪乃圍  
 古物以作り盤觸ハ誘ふ如  
 ゆ名取葉危 異中ハ抄の柄者以  
 毛即ハ百夜是るハ辛却時めく  
 森足少も種と音作り 楓香  
 均瓦山帳 赤糸て云〜後者の名

後五十二

浦雄 五的 新腰 丸言 花翁 周丸 浦雄 全  
 南浦 丸言 石橋 松玉 光網 梨丸 卷回 姓正 史綱







嘯ハ畜生欠ハ南無河孫院

箱

心一ムハソウモ思ム戸

巖

澄切トあり己ハ思ヒム

岩田

友分ニシム守分由殺シ

作

肩流一ト思ヒト湯屋ハ誘ハ

松玉

西江流ハ厭ヒテ嘆一ト思ヒテ

弱

修羅 野 遊 志 地 々 啼 ぬ 鶴

松玉

後五十三

跋

先哲の撰書ヲ輕視の由ハ一ツノ

年々カテ流々書肆ノ傳ハ一ツノ

流ハ一ツノ傳々日々進んで行ハ

其の傳ハ一ツノ傳々日々進んで行ハ

速一ツノ傳ハ一ツノ傳々日々進んで行ハ

其の傳ハ一ツノ傳々日々進んで行ハ

其の傳ハ一ツノ傳々日々進んで行ハ



その如き所預の如く一 終五旬の日と  
法に好むの如くをその卯の書方同様の  
之れに好むの如くをその卯の書方同様の  
様々の如くをその卯の書方同様の  
之れに好むの如くをその卯の書方同様の  
いさこの如くをその卯の書方同様の  
細者の如くをその卯の書方同様の  
後から業りしととあつふ

天保十四癸卯歳十月新版

双雀房双鶴藏

大阪心齋橋南久太良町南入

賣弘書肆 秋田屋市兵衛

54巻号



慶應四年  
七月五日

敬  
如  
此